

“コモンズ・インターンシップ”修了式が行われました。

今朝の気温は氷点下1度でした。日中は晴れていましたが、冷たい横風が強かったためか、最高気温は8度で晴れていても寒く感じました。

コモンズセンターがオープンして、早いもので、あと一月で一年が経過しようとしています。コモンズセンター開設当初、学生への認知度も高く無く、新奇で耳慣れない名称で、利用者がいるのか？一体何ができるのか？どんな力がつくのか？など注目度が高いぶん、不安も大きかった事を思い出します。約11か月が経った今、振り返るとこの不安は杞憂に終わりました。中でも、コモンズサポーターの力は特筆すべきものだと思います。

2月24日、コモンズサポーター第一期生の“コモンズ・インターンシップ”修了式が行われました。コモンズサポーターを代表して、平尾くんが力強く、自信にあふれ、堂々とコモンズセンターでの1年間を綴った謝辞を読み上げました。この内容にコモンズサポーターとなり、成長した姿(過程)が学生の立場から語られていました。本人の了承のもと、以下に原文のまま掲載します。

コモンズサポーター代表挨拶

本日は私たちコモンズサポーターのためにこのような式典を開いていただき、また、4年生には不言実行館賞をいただきまして、ありがとうございます。コモンズサポーターを代表して、お礼申し上げます。

代表と申しながら、私個人の1年間を振り返らせていただきます。

私は半年間の派遣交換留学の経験により国際交流センターからの推薦を経て、コモンズサポーターの話をいただきました。就職活動や卒業論文などで忙しいことは百も承知でしたが、これも何かの「縁」だと思い、参加することを決めました。

そもそもこのインターンシップ、他のサポーターはきっと進歩的な理由で参加していたと思われそうですが、私はもっと気軽に考えていました。他学部・他学科の友人・知り合いが一人もいなかったのも、それが得られるのはいいことだと思っていたぐらいのもので、成長したいとか、社会に出るための力を身につけたいとか、そのような進歩的な考えはその時は思ってもみませんでした。初めてサポーター同士で顔を合わせ自己紹介した時は「みんな行動力があるなあ」と驚きました。大学祭実行委員、NPO、フレッシュマンキャンプ、ピアサポーター、CUP、留学、等々。普段生活しているだけではほぼ確実に会おうことなかった人たちがばかりでした。私はこの時、不思議な「縁」もあるものだなと思ったと同時に、ふとあることが頭によぎりました。サポーターとして働くのであれば、このような「縁」をたくさんの方が共有できる環境を整えたいと思ったのです。

その後、私達は5つの班に分かれ、私は1班のリーダーという大役に就きました。私はこのような組織でリーダーという立場を経験したことがなかったので、実際は不安でいっぱいでした。班ごとの研修では、まだまだ慣れていないメンバーだったので、自分の意見も出しづらく、うまく距離感が掴めず苦労しました。しかし、それでも何度か集まり、研修時に出された課題をみんなで考えることで、少しずつ距離が縮まったように思いました。

研修を経ていざ開館、忙しくなるかと思えばそうでもなく、拍子抜けしたほどでした。そのような状況のなかでも、どうにかして利用者を増やそうということで、センターの周知を目標に掲げたのがサポーター一期生の本当の始まりと言えます。そのためにはどうするか、映像を作る、広告を作る、SNSで宣伝、みんなで考え、時には事務室の方々やセンター長、コンシェルジュの先生に助けられながら、頑張っていました。

リーダーとしての活動は、連絡事項の周知、月に一度の会議のために全員の日程調整、その会議の内容作りなど、予想よりも大変でした。しかし私はこの経験を経て、リーダーとしての責任と、みんなとのコミュニケーションの重要性を肌で感じる事ができました。ただ、もう少し自分の仕事に責任が持てたらよかったのかなと感じていますし、みんなに頼んで仕事を分散できたならよかったのかなとも感じています。忙しかったことを理由に、やり残しや中途半端に終わってしまったことが多々あったからです。今後、自分が気を付けていかなければならない点が見つかったので、貴重な経験をさせてもらったなと思っています。

他のサポーターはというと、私の主観と言うか印象ですが、どれだけ小さなことにも気付くことができる人が多いように感じました。私が気付かなかったことを指摘してくれたり、受付業務以外でもやれることを見つけて作業したりしていたからです。次期サポーターもぜひとも参考にしてほしい点の一つでもあります。

そのような中でも、コンシェルジュの岩間先生に助けていただきながら一つの活動に、不完全ながらも区切りをつけました。チャレンジサイトの活動です。「夢を叶えた中部大学OB・OGを招いて、トークライブで交流しよう」という企画で、サポーターとしては初めて学生向けに行った企画です。この企画は、それぞれの道に進んだ先輩方がどのような学生生活をおくり、どのような夢を持ち、どのようにして現在の道に至ったかを、講演会のように大々的ではなく、もっと身近な距離でお話ししていただくというもので

す。この企画では、企画のセッティングというのを初めて経験しました。ゲストとなる先輩との連絡、広報のための資料作り、当日のスケジュール調整とトーク内容を予め準備、などを行いました。回を重ねる度に反省点が出てきて、もっとたくさんの人に聞いてほしかったというのがあります。私自身が先輩方の話を聞いて、今後の参考になったので、私達の準備不足が原因で、せっかくの貴重なお話を聞かせられる人達が大幅に少なくなりましたことは心残りです。もし、興味を持ってくれたたくさんの学生が聞きに来てくれれば、その話を聞いたことにより、将来のことを考えてくれたり、共通の話題で「縁」を広げていけると思ったからです。

私たちはコモンズサポーター一期生として、コモンズセンターの雰囲気を築きました。しかし、私はこの雰囲気を二期生は気にせず活動してほしいなと思っています。これまで築いたのはあくまで「一期生の雰囲気」であって、二期生には自分たちの「二期生の雰囲気」というものを出して行ってほしいなと思います。もちろん、一年間一緒にサポーターをやった後輩もいるので、皆それぞれ思いはあるはずです。必要だと思ったことは残し、必要ないと思ったことは無くして、取り入れてみたいことは取り入れて、自分達だけの「コモンズ」を作り上げてください。

最後になりましたが、理事長の飯吉先生をはじめ諸先生方、コモンズセンター事務室の皆様には、1年間本当にお世話になりました。

私が今回の話の中に掲げた「縁」というのは人との繋がりだけではなくありません。サポーターのお話をいただいたこと、リーダーという立場、活動を通して得た経験。これらも、自分で考え、行動することで得ることのできた、この一年間でしか得られることのできなかった貴重な「縁」なのです。私たちはこれまでの活動で得てきた「縁」を大切に、社会に出ても新しい「縁」を築き続けていきたいです。コモンズサポーターを代表し、ここでもう一度心から感謝の言葉を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成28年2月24日 コモンズサポーター代表 中国語中国関係学科 平尾高志

コモンズサポーター第一期生は多くの議論をしてきました。コモンズサポーター第一期生と言う“仲間”と、この“議論”は、これから社会に飛び出す中で大変貴重な財産になると感じています。違うモノの考え方をを持った他学部他学科の同級生、後輩との関りにより受けた刺激が、新たなアイデアを生み出すことへ繋がり、今後の力になると思います。

最後に、コモンズセンターはこの11ヵ月、まだ誰もやったことのない未知の境地を切り開いてきました。今回の修了式では、このチャレンジ精神に向き合ったコモンズサポーターを称えるため、不言実行館賞が卒業する4年生に贈られました。中部大学の誇るべきチャレンジ精神を胸に、社会であてにされ、輝いてくれるものと信じています。



1年間のコモンズ・インターンシップを終了したサポーターたち。
飯吉理事長や不言実行館運営委員会の先生方にもお越しいただきました。

コモンズセンター長 伊藤 守弘